

令和6年度 学校評価

4:良くてきた(そう思う)3:できた(だいたいそう思う)2:あまりできなかった(あまり思わない)1:できなかった(そう思わない)

↓平均値(前期:3.23/後期:3.20)に対し、上回った項目(黄色)、下回った項目(緑)

分類	自己評価		比較増減	改善策(後期)	学校関係者評価	
	前期	後期				
	平均	平均				
教育目標の具現化	(1)道徳教育やここに各班活動等を通して、「思いやりの子」(思いやりと優しさを抱き、互いに高め合う心)を育てる取組をしている。	3.20	3.13	↓	概ね適正である ・全体を通してだが、日頃の先生方の姿を見ていて、評価がもっと高くてもよいと感じる。	
	(2)各教科や学級活動等の授業を通して、「よく考える子」(自分で考え、責任をもって行動し、自分の道を切り拓く力)を育てる取組をしている。	3.27	3.07	↓		
	(3)体育の授業を中心に、「元気な子」を育てる取組をしている。	3.40	3.40	→		
	(4)学校教育目標と学年目標の関連を図り、学年経営・学級経営の工夫・改善を行っている。	3.20	3.20	→		
	(5)学年目標実現のため、教師間で共通理解を深め、達成のための工夫や取組をしている。	3.13	3.40	↑		
組織運営	(6)自己有用感もてる学年・学級経営のために、具体的な工夫や取組をしている。	3.27	3.13	↓	概ね適正である	
	(7)自らの分掌内容を把握し、前年度の課題解決等、具体的な取組をしている。	3.00	2.93	↓		安全点検を先生方をお願いしているが、日程が遅れて配付することがあった。安全点検日までに確実に配付するようにする。計画立案はできた。幼保小交流会が2月開催なので、その後、次年度に向けての課題解決等、具体的な取組を考えたいと思う。保健主事としてこれといった活動ができなかった。来年度は紙面でもいので学校保健委員会と名乗れるものを取り入れたい。
	(8)児童とともに清掃活動を行ったり、教室廊下の掲示物を整理したりする等、校内の環境美化に努めている。	3.40	3.60	↑		
	(9)児童のけがや病気について、養護教諭や保護者との連携を適切に行っている。	3.67	3.60	↓		
	(10)いじめ、不登校、問題行動の早期発見に努め、学校組織、保護者、関係機関と連携し、対応している。	3.40	3.33	↓		
学習指導	(11)交通事故防止、不審者による事故防止等、安全指導を徹底している。	3.40	3.40	→	概ね適正である ・英語の評価が良くなっている。具体的な取組は、⇒ALTとの細かい打ち合わせ、ICTの活用等が考えられる。 ・通知表の総合所見では、評価に良いことだけでなく、課題等の実態も記入してよいのではないかと、文章で伝えるために言葉を選ぶ際に考えすぎあまり、伝わりにくいこともあるのではないかと。 ・総合所見がなくても、個人面談ではっきり、具体的に伝えてよいと思う。	
	(12)授業において、基礎学力定着のために習熟や復習の場面を取り入れている。	3.40	3.20	↓		今までに習った音符や休符、記号を何度も復習して、定着をはかる。
	(13)英語活動(外国語活動、外国語)の授業において、ALTを効果的に活用し、児童に「話すこと」を中心とした、コミュニケーションを図ることを楽しむ態度を身に付けさせている。	2.93	3.27	↑		
	(14)「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行っている。	3.07	3.00	↓		
	(15)文字や線を丁寧に書く指導を行っている。	3.27	2.93	↓		机間指導時に確認・指導する。2学期後半は意識して声かけをするようにしたが、前半はあまりできていなかった。テストの名前や日頃から声かけを行い、意識するようにさせる。書写以外は速さも大事だと教えてしまったので、せめてお家の人が読める字で書かせるようにしたい。
	(16)児童がICT端末を活用できるような授業を展開している。	2.80	3.00	↑		まずは、担任自身がICT端末を積極的に使用していく。デジタル教科書のページや、スクールタクトでの振り返りなどでICTを取り入れていきたい。特別支援の低学年は、基礎学力定着の時間で考えたい。
	(17)毎時間のねらいを明確にし、効果的な発問・ICT活用・板書を工夫した授業を行っている。	3.20	3.00	↓		
	(18)児童の実態を把握し、一人一人を大切に、個に応じた授業を工夫している。	3.13	3.20	↑		
	(19)発表の仕方、聞き方、グループの話し合いの仕方など、学習のルールを身に付ける指導に取り組んでいる。	3.07	3.07	→		音楽の授業での意見の聞きかた、曲の聴きかたのルールは決めたが、喋ってしまう学級があるので徹底していきたい。
	(20)特別の教科「道徳」は、年間指導計画に基づき、計画的に実施している。	3.13	3.13	→		昨年に比べて授業時数に成長は見られるが、まだまだ年間指導計画通りには進んでいない。引き続き、意識的に授業を行っている。
(21)児童が主体的に活動できるように、係活動、委員会活動、クラブ活動を工夫している。	3.27	3.00	↓	当番活動のみで、係活動ができなかったが、当番活動が主体的に行動できるように、みんなのために何ができるかを考えさせ、行動できるよう支援した。児童が、主体的に取り組められるような係活動を決めて、活動できるようにする。		
(22)児童が自ら進んで挨拶するよう、指導している。	3.27	3.20	↓			

規律・体力	(23) 授業の前の学習準備ができるよう、また授業の開始時刻を守るよう、指導している。	3.47	3.33	↓	授業後に次の時間の準備をさせたい。	概ね適正である ・挨拶を返してくれる児童が多くなっているように感じる。
	(24) ていねいな言葉遣い、相手の気持ちを考えた優しい言葉について、指導している。	3.33	3.47	↑		
	(25) 大勢の中で、話をしっかり聞く児童を育てている。	3.27	3.40	↑		
	(26) 児童の体力の結果を分析して課題を明確にし、課題解決に向けた取組を行っている。	3.27	3.13	↓		
働き方	(27) 時間外在校時間(月45時間以内)を守ることができている。(繁忙期を除く)	2.93	3.00	↑	仕事に優先順位を付けて、計画的に仕事に取り組んでいく。 会議の時間をもう少し減らし、学年や学級の時間に充てていただきたいと思う。 計画的に進めることができるように、見通しをもって仕事をする。 去年よりかは減ったと思うが、まだ時間内に終わらすことができていなかった。やる内容の期日を確認しながら、計画的に進めていく。 退勤時刻を守ろうとすると、出勤時刻が早まり、結果的に時間外在校時間が守れない状況である。	概ね適正である ・全体を通してでもあるが、評価の項目が同じものは、評価の経年変化を考察すべきではないか。そうすることで、課題が見えてくるのではないかと。
	(28) 働き方改革に対して、意見を交わしたり、実践に移したりすることができる職場である。	3.13	3.20	↑	会議や研修はどれも重要であることは承知しているが、回数や時間、時期など精選が必要ではないかと思う。	
	(29) 職場環境に対して、ワークライフバランスが取れていて、働きやすいと感じている。	3.40	3.40	→	休憩時間に仕事をして18時まで、19時までに終われず、休日に来る先生もいらっしゃるということは、休めていないのではと思う。(28)でも挙げた通り、放課後の会議や研修等の精選が必要ではないかと思う。また、以前の学校では、教務用務期間というものを設けていただいて、主に成績処理期間に、1日2時間×5日間で合計10時間時間外勤務を行った場合、10時間調整を頂いて休めるというものがあってあった。	
宿題改革	(30) 宿題改革による、これまで宿題で押さえていた内容(漢字・計算等)は、授業に汲み入れて補うことができている。	3.13	2.93	↓	何度も練習することで身に付くと感じる。 「授業の中で短時間でできる漢字や計算の習熟は実施してきたが、定着させるためには授業の時間だけでは厳しい。(5分でできる内容量は限られており、新出漢字の数も多いため)漢字は、学期ごとに新出漢字を区切るのではなく、1年間で身に付ける漢字を、何度も目にする・声に出す・テストするなどのパターンで一定の間隔で往復するとよいかもしれない。(しかし、本校の実態を考えると、「少しずつじっくり」の方が取り組む意欲を保てるのかもしれない)計算について、本学級では3分間テスト(計算なら9問・文章題は2問)を毎時間実施している。小数の位、筆算の計算などはとにかく毎日やるのが大事だと思う。 授業に汲み入れていくと、本時の学習が削られてしまう。開始3分(音読1分・漢字2分)と決めているが、児童の実態を考えると時間で切ることが非常に難しいと感じる。毎時間の授業の流れが決まっていることで学習への心構えや安心感はあるため、学習意欲は高まっていると思う。 漢字は全員に5分間平等に行わせているが、計算は、授業の課題が早く終わった児童から取り組ませるといことが多く、全員に平等に取り組ませる時間を与えることができなかった。この点を解消するには、算数でも計算タイムなどを5分設けて取り組ませる必要があるのかもしれない。	
合計値		96.80	96.07	↓		
平均値		3.23	3.20	↓		